

\*\*\*\*\*

第 97 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

XCVII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

\*\*\*\*\*

日時：2016 年 4 月 9 日（土） 13:00 - 15:00

場所：関西学院大学梅田キャンパス(ハブスクエア) 1005 教室

担当者：Concha Moreno, 四宮瑞枝（いずれも GIDE）

今年度のテーマ「『スペイン語学習のめやす』を利用して所要時間 20 分の教案を作る」

今月のテーマ『スペイン語学習のめやす』—紹介およびその適用可能性について—

実施報告者：小川雅美

\* Fecha y hora: sábado, 9 de abril de 2016, de 13:00 a 15:00

\* Lugar: Universidad Kwansai Gakuin, Campus de Umeda "K.G. Hub Square", Aula 1005

\* Encargadas: Concha Moreno y Mizue Shinomiya (GIDE)

\* "Un modelo de contenidos para un modelo de actuación": presentación y discusión sobre su aplicabilidad en el contexto japonés

\*\*\*\*\*

（『学習のめやす』についての考え方、ワークショップ担当者の主張内容等とこの報告の内容とに齟齬が生じないように、報告はごく簡単なものにとどめる。『学習のめやす』そのものの中で詳述されている。）

## 1. 今回のワークショップの趣旨

今回は、スペイン語教育研究会(GIDE)のメンバーである Concha Moreno 氏、四宮瑞枝氏の両名をお迎えする特別企画であった。

GIDE（スペイン語教育研究会）は、昨年『言語運用を重視した参照基準「スペイン語学習のめやす」』（スペイン語タイトル "Un Modelo de Contenidos para un Modelo de Actuación: Enseñar español como segunda lengua extranjera en Japón"）（以下『学習のめやす』）を発行した。この冊子は、CEFR、アメリカの SFLL、国際文化フォーラムの『外国語学習のめやす』などの基本理念を、日本のスペイン語教育の環境に照らして適合させ、今後の教育実践の方向性を明確に示した労作で、他の外国語の教育研究者らからも注目されている。

そこで、2016 年度、TADESKA では、『学習のめやす』の枠組みを用いて、2013 年度、14 年度に実施したテーマである「20 分教案」を再び取り上げるようになった。このため、GIDE の Concha Moreno 氏と四宮瑞枝氏に、『学習のめやす』の作成意図と活用法についてご説明いただくとともに、参加者間で話し合うこととした。

## 2. ワークショップの内容

Moreno 氏が『学習のめやす』の理論的基盤、使用されている用語の概念をスペイン語で説明し、四宮氏が適宜、その内容を日本語で解説したり、補足したりした。また、両者による『学習のめやす』の教育実践への活用例が紹介された。

日本におけるスペイン語教育の抜本的な改革は、GIDE が取り組んでいた主要な課題であり、その取り組みの方法に新たな方向性を与えたのが国際文化フォーラムの『外国語学習のめやす』における、中等教育の中国語、韓国語の試みであった。GIDE はスペインから東京外国語大学に招聘された Moreno 氏を迎えて、スペイン語独自の「めやす」の策定を行い、2015 年にレベル I として、初修の学習者向けのものを完成させた。

方法論的基盤は、1)学生の学習へのモチベーションを呼び起こし維持すること、2)授業中の相互行為を拡充・改善すること、3)学習についての内省および言語の意識化を促進すること、4)言語の学習の影響が人格の発達にもたらされるようにすること、これらをめざした教育方法である。このことは、過去に GIDE が実施した大規模なアンケートにより、多くの学生の関心が、スペイン語圏の文化を知り、たくさんの人と話せるようになりたいという点にあったことと結びついている。

『学習のめやす』の能力記述（「レベル記述文」）は、1)解釈モード、2)対人モード、3)提示モードの3つで成り立つ。これらは、それぞれ、理解、やりとり、表現の側面から、言語コミュニケーション能力を捉えたものと言える。（これらのモードは学習者の活動への取り組み方に関わる。つまり学習者のパースペクティブとなる。「話す、聞く、書く、読む」という伝統的な4技能は、外から、多くは教師側から見た学習者の行為に関わる。）

『学習のめやす』の実践モデル (tablas de contenidos) は12のテーマ(話題)に分かれており、それぞれが、1)社会文化項目(現実に近いものにする)、2)機能項目、3)語彙項目、4)文法項目で成り立っている。この1)から4)の順番は、コミュニケーション活動の「目的」を最重要視することから、決まった。社会文化的要素には、「大きな文化(Cultura)」(芸術など)と、「小さな文化(cultura)」(日常生活)、そして異文化へのまなざし(una perspectiva intercultural)が含まれる。外国語教育において、飾りとしての文化から、「前テキスト(pretexto)」(言語表現に先立つもの。この日本語は小川による)としての文化への転換が図られている。

学習の評価については、言語コミュニケーション活動の「ぶれない目的」を、最初からきっちり示すことが重要である。例えば、「丁寧に断る」ということが目的の活動を評価する際には、丁寧に断るという行為ができていれば評価基準を満たしたことになり、若干の誤りは若干のマイナスとするにとどめる。

実践モデル (tablas de contenido) は、実践に柔軟に応用できるようにしている。つまり、コミュニケーション・アプローチによる教科書であっても、文法シラバスの教科書や授業であっても、実践モデルの表を利用することができる。

以上のような理論的な説明の後、Moreno 氏、四宮氏のそれぞれにより、実践への応用例の紹介があった。Moreno 氏は、文法の授業で、動詞の不規則活用形、迂言形式（「動詞人称形+不定詞」の場合）、疑問文などの項目を教えたい場合に、実践モデルの表を参照しつつ、授業の指針を定め、教材を準備し、活動を作っていく方法を説明した。四宮氏は、社会文化項目から文法に至る教案を、実践モデルの「テーマ3：都市と交通」を例に示した。

当初は、担当者によるプレゼンの後に、参加者全体でディスカッションを行う予定であったが、時間不足のため、参加者と担当者の間は、散発的な質疑応答にとどまった。担当者らにとっても私たちにとってもこの点は残念であったが、今後、TADESKA 内に限らず、議論の場が設けられることを期待する。

### 3. 実施報告者のコメント

参加者の1人として、特に印象に残ったのは、1)3つのモード、2)社会文化項目(つまり、意味)から機能、語彙を経由して語彙に至るというシークエンス、そして3)実践への応用における柔軟さである。1)については、伝統的な4技能との関係とともに、学習者の行為への「構え」(無意識に構えることも多い)を単純明快に示すことで、言語コミュニケーション能力が立体的に提示されている。2)と3)は、注目すべき関係にある。つまり、コミュニケーション中心の言語教育においては、文法シラバスによる授業そのものが排除されようとする傾向にある。しかし、これは、カリキュラム策定と授業のシークエンスとの同一化によるものと言える。『学習のめやす』の実践モデルの表の作成を、社会文化項目から文法へ、という順番で行ったということと、実際の授業が文法事項を軸に行われているということは、全く矛盾しない。むしろ、モデルの表の索引を見て、文法事項から語彙、機能、社会文化項目へ至り、

これらを具体的な例文がつないでいることにより、文法の授業で扱われる例文が、単なる形式操作のための、いつどこで使うか不明のものにならず、学生らが納得して文法事項を学習できるものになっている。これまでに出版された日本のスペイン語教科書には、コミュニケーションのため、と称しつつ、会話の文章と、文法事項の例文が全く関連していないものが少なくない。しかし、『学習のめやす』を参照し、今回のワークショップで示された方法でこれを利用することにより、分離しがちな「コミュニケーション」と「文法」が連携された言語リソースが学生らに提供されるだろう。これだけでも、スペイン語教育におけるひとつの確実な前進であると考えられる。(この点が明確でないと、結局、これまでも論じられてきたコミュニケーション中心の教え方の話と何が異なるのかという疑問が生まれてしまうので、注意したい。)

今回のワークショップには、全員で20名が参加し、盛況であった。5月以降は、『学習のめやす』を利用した「20分教案」のワークショップが始まる。実践者の独創性が生かされつつ、学生を初め他の教師とも共有できるような教案作りがめざされることであろう。

最後に、今回の企画のために、お忙しい中東京からワークショップを準備、実施して下さった Concha Moreno 氏、四宮瑞枝氏に感謝するとともに、発案の段階でご相談にに応じていただいた大森洋子氏 (GIDE 会員、TADESKA メンバー) にも併せて御礼申し上げます。

#### 参考文献

スペイン語教育研究会(2015)『言語運用を重視した参照基準「スペイン語学習のめやす」』(スペイン語  
タイトル "Un Modelo de Contenidos para un Modelo de Actuación: Enseñar español como  
segunda lengua extranjera en Japón")  
[非売品。次の URL よりダウンロード可。  
<http://gidetokio.curhost.com/archivos/201601Modelo.pdf>]